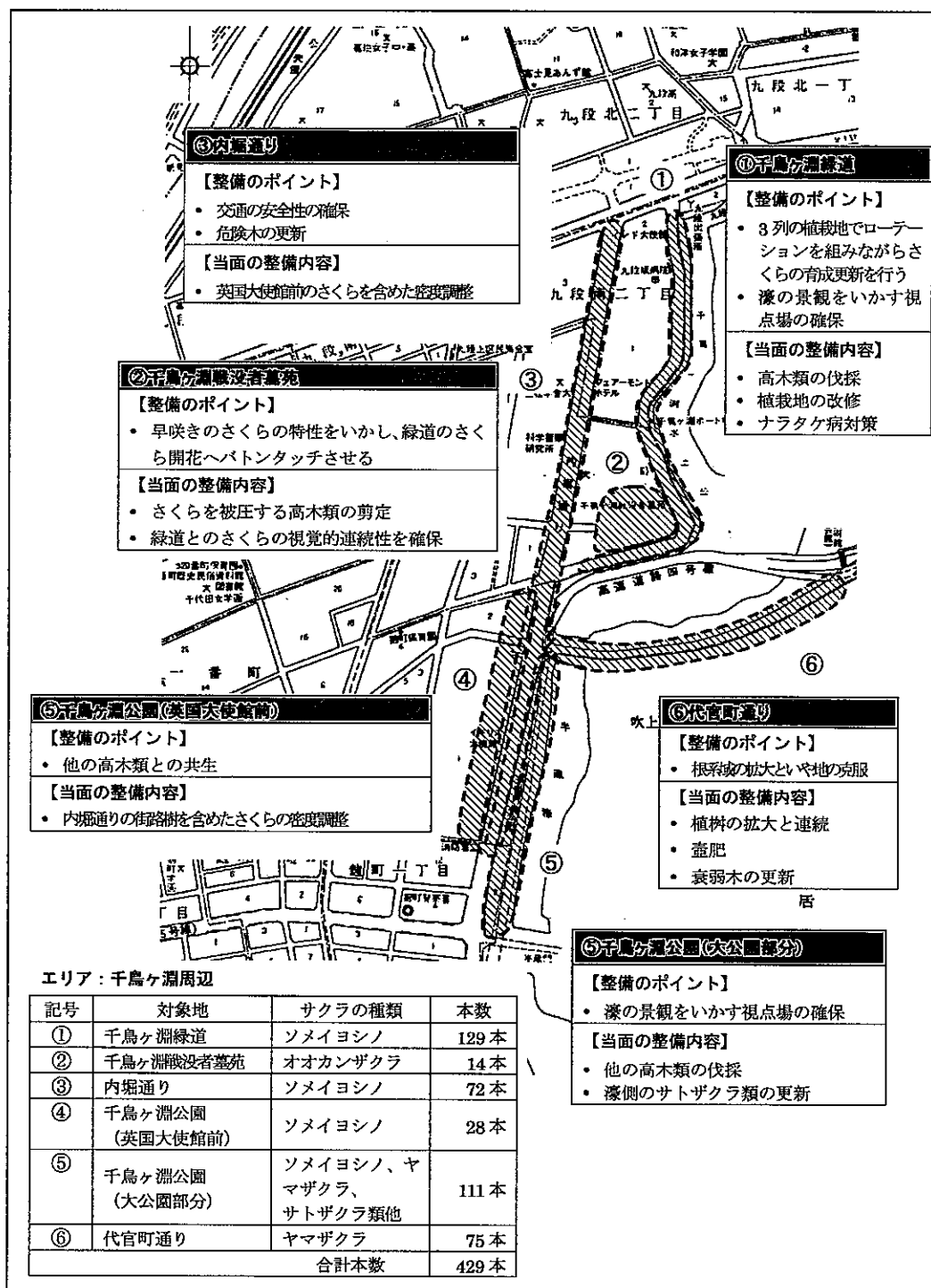


4. 重点地域整備計画とさくら景観の将来像

区内のさくらは皇居北西部に多く集中している。特に千鳥ヶ淵周辺・靖国神社周辺および江戸城外濠の土手筋に群をなしている。また今回の調査ではこのエリアからならたけ病菌が確認されるなど、再生の必要性が高いエリアでもあった。そこで、花見の名所になっているこの3エリアについては重点的に行う再生整備と整備が目指すおよそ30年後の将来像を検討する。

1) 千鳥ヶ淵周辺



(1) さくら景観の将来像

1) さくら植栽地の確保、植栽条件の改善

- ① 植栽位置を調整することによって日照条件を確保する。
 - ・お堀側のさくらを更新する際には法面の中へ植栽を行う。
 - ・緑道中央部のさくらを更新する際には車道側の植栽地に植栽する。
- ② 車道側への緑道の幅員拡張が可能であれば拡張を図る。
- ③ 将来的には車道側、中央部分、法面部分の3列の植栽地を用意し、ローテーションを組みながら植栽を行うことによってさくら植栽地として良好な状態を保つ。

2) 緑道の幅広い利用ができるように施設整備を図る

濠の景観を活かすような視点場を整備し、水辺とさくらの景観に親しめるようにする。

(2) 将来のイメージ

千鳥ヶ淵周辺は千鳥ヶ淵墓苑のオオカンザクラが春の幕開けを知らせる。さくらの周辺を明るく整理したので、花が早春の陽に輝く。いよいよさくらの季節の到来だ。千鳥ヶ淵緑道はソメイヨシノの枝で覆われ、まるでサクラのアーチを通り抜けているようだ。皇居が垣間見られ、斜面を覆うソメイヨシノがムラサキハナナの中に浮かび上がって見える。お濠を挟んでソメイヨシノが競演しているようだ。緑道を抜け千鳥ヶ淵公園に出ると、ここでもさくらが楽しめる。細長い公園だが点々と大木のソメイヨシノが枝を広げ、私たちが歓迎してくれる。お濠側を通ろうか英国大使館側を通ろうか迷ってしまう。一方代官町通りのヤマザクラはちらほら花が咲き始めたところ。一週間後が見頃になるだろうから、もう一度さくらが楽しめる。

半蔵門から靖国神社方面へ戻るか、四谷方面へ行くか、お濠沿いに憲政会館方面へ行くか、どの方面へ行ってもさくらが満喫できる。

●イメージスケッチ

更新と補植によってさくらの位置を車道側の植栽地とお濠側法面内に移し、緑道中央部を植栽余地とした後の状態。



2) 靖国神社周辺



(1) さくら景観の将来像

1) さくらの密度管理・開花標準木の育成

●現状の植栽密度は明らかに高すぎることから、今後枯死、撤去されるさくらが出てきた場合でも、その場所に補植することは行わず、全体の植栽密度が低くなるように調整を続ける。

●靖国神社のさくらは気象庁が東京のソメイヨシノの開花宣言を行う基準地とされており、またお花見の名所としても名高い。こうしたさくらの名所にふさわしいように風格があり、花着きの良いさくらを育成してゆく。

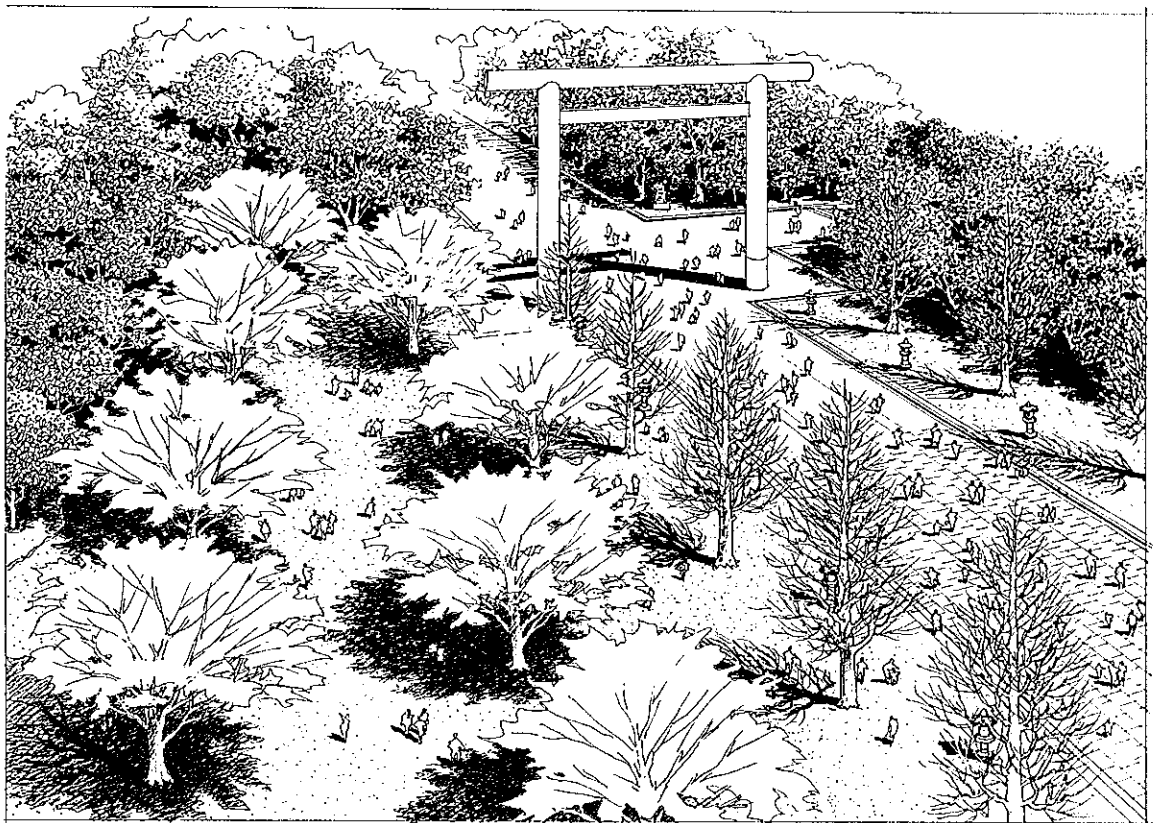
●ソメイヨシノの開花基準木の更新、育成を図ってゆく。

(2) 将来のイメージ

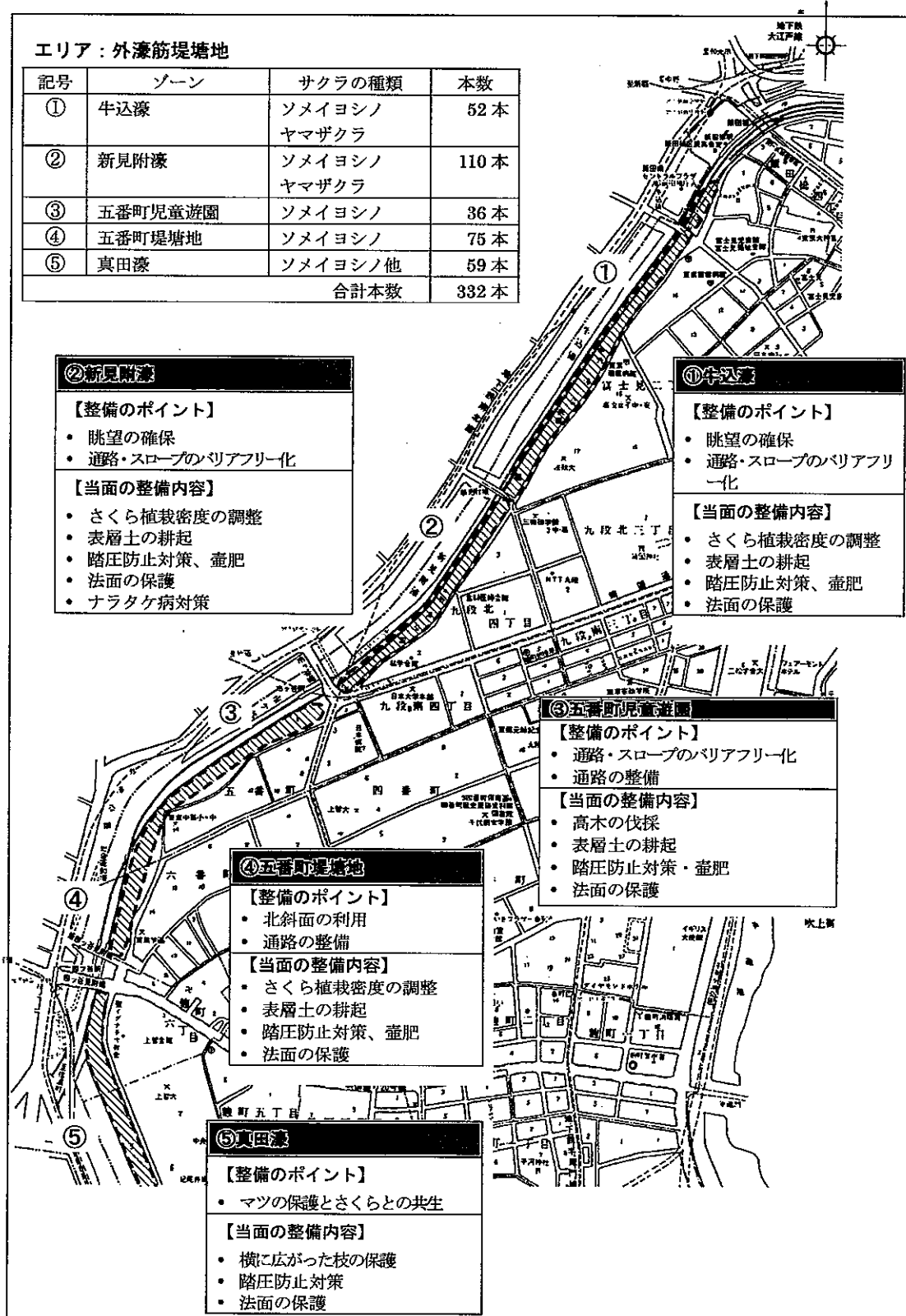
靖国神社のさくらの開花は東京に住む誰もが注目している。日本の春は靖国神社から始まるといっても過言ではない。九段下から靖国神社方面に歩いていくと内堀通り沿いのさくらが私たちを迎えてくれる。靖国神社への期待感を増幅させる。大鳥居をくぐるとそこはさくらの園だ。再生・更新されたさくらが広く枝を伸ばし、その下で花見客は思い思いに春を満喫している。さらに足を進めると賑やかだった外苑とはがらっと趣きが変わる。荘厳な雰囲気の中で、献木されたさくらが内苑の空を埋め尽くしている。さくらの雲とはこのことを言うのであろうか。

靖国通りに出ると道の両側にさくら並木が続く、この通りを市ヶ谷方面にさくらを見ながら歩いて行くのも楽しいことだろうし、時間があれば千鳥ヶ淵緑道に出てもう一度さくらを満喫することもできる。

●イメージスケッチ



3) 江戸城外濠の土手筋



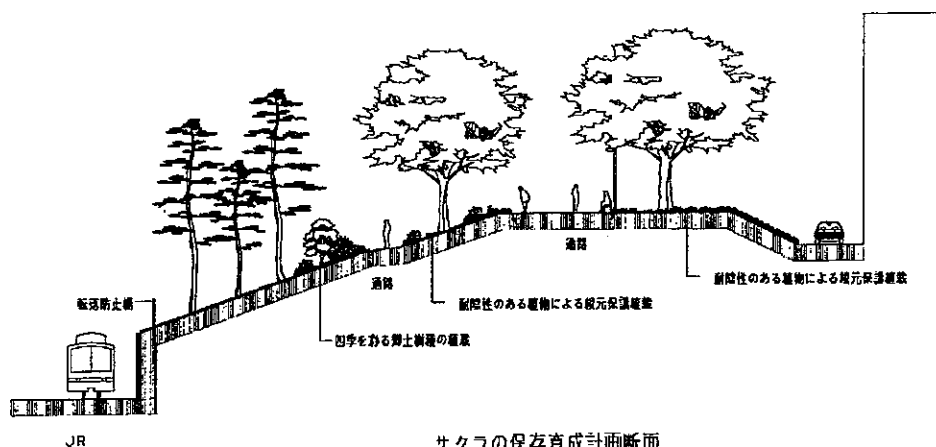
(1) さくら景観の将来像

- 1)全国有数のさくら並木としてPRを計る
 - 愛称、通称など親しみやすい名称に統一してゆく
 - 快適な散歩道となるような施設整備を行う
- 2)さくら生育環境の保全
 - さくらの生育に対して重要な役割を果たしている斜面の保護
 - JR側のマツ林を含め、さくらを被圧している樹木の伐採
- 3)意図的な更新作業の実施
 - 幅員の広い五番町児童遊園や法政大前では全体の景観を保ちながらさくらを更新することが可能である。
 - 濠側法面へのさくらの導入
- 4)風格、趣のあるさくら植栽地と整備
 - 堤頂部のマツの保護
 - 外来樹種を撤去してゆき、日本固有種で統一観を図ってゆく

(2) 将来のイメージ

外濠筋の土手は約2kmにもおよぶさくらのプロムナードだ。飯田橋駅から牛込濠の土手に出ると延々とさくら見える。堤塘地の歩道は整備されているので歩きやすい。右手にお濠の水面が垣間見られ、かつてここが江戸城のお濠の土手であったことが分かる。土手筋のさくらはどれも大木で、私たちはその枝下を花を見ながら通り抜けられる。新見附橋の手前にはとりわけ立派なさくらがある。樹齢は5・60年ほどであろうか、四方に枝を広げた美しい樹形をしている。すれ違う人は一様にさくらに見惚れている。

新見付濠からは外堀通り沿いのさくらも見られる。向こう側からも私たちのことをきっと見ていることだろう。土手の上にひと筋のさくらの帯が延々と続くのが見えているに違いない。五番町の公園で一休みしたあとはいよいよ真田濠のさくらでクライマックスを迎える。土手に上がり外堀通り側に目を向けると迎賓館や青山、赤坂、六本木方面のビル群が見渡せ眺めがいい。土手の上は花見客でいっぱいだ。この土手には樹冠が20m以上にもなるソメイヨシノがいくつもあり、花見客を圧倒している。陽光にてらされサクラは輝きを増している。



サクラの保存育成計画断面